



NTTコムウェア

SDGs ACTION BOOK 2021



Action for a Sustainable Future

トップメッセージ

お客さまの真のビジネスパートナーとして 新たな価値を協創し、SDGs達成へと行動を加速します。

サステナブルな未来の実現へと、激動する社会

2021年、日本は大きな環境・社会課題のうねりの中にいます。環境課題では、2020年10月の政府による方針表明を機に、「2050年までに日本でカーボンニュートラルを達成する」という国家目標が策定され、脱炭素化に向けた施策が各所で急加速しています。同様に循環型経済（サーキュラーエコノミー）の実現に向けた取り組みも官民連携で活発化し、ものづくりや経済活動のあり方に影響を強めつつあります。社会面では新型コロナウイルス感染症にともなう「ニューノーマル(新常態)」を背景に、日常やビジネスの現場へとAI活用や自動化といったデジタル技術が浸透し、人びとの生活に変革が広がっています。このような中、私たちNTTコムウェアグループは、「お客さまの真のビジネスパートナーとして新たな価値を協創する」を合言葉に、さまざまな環境・社会課題の解決へと日々取り組み、サステナブルな未来の実現へと挑戦しています。

着実に成果をあげる、私たちのSDGs貢献

より良い明日、すべての人びとがいいきと暮らせる未来の実現へと国や組織の枠を超え協働する同僚組みが、2030年の達成目標年まで10年を切る現在、私たちの事業の現場では、貢献のあり方に関する議論が活発化しています。

その成果は着実に実を結んでおり、2020年度も数多くのSDGsに対して貢献する成果をあげることができました。例えばSDG8「働きがいも経済成長も」に対する貢献として、勤務管理業務を支援する一連の機能をクラウド環境で提供するソリューションfollow[®]の事例をご紹介します。現在、多様な働き方を前提とした健康経営が重要となっています。これを踏まえ、出退勤・勤務場所・健康状態等の情報をチャットツールから投入できる新機能を提供開始しました。この機能により適切な勤務管理と健康管理が実現可能です。



また、SDG11「住み続けられるまちづくりを」に貢献するソリューション「smart路面点検サービス」をご紹介します。現在、日本各地では公共インフラである道路の老朽化が進み、道路の維持修繕費用の問題と併せ大きな社会課題となっています。この問題をAIおよびネットワーク技術を活用して解決します。

当冊子で昨年以上に多い活動事例をご紹介しますことを、大変嬉しく思います。コーポレートメッセージ「心をつなぐ、社会をつなぐ」を合言葉に、私たちはこれからも社会課題に対する価値創造へと全員で挑戦し、皆さまとともに歩みます。

「NTTグループサステナビリティ憲章」の再構築

NTTグループは「持続可能な社会」の実現に向けて「NTTグループCSR憲章」を昇華し、より広い概念としてSDGs、ESG、CSVを包含したグローバルにも通じる「NTTグループサステナビリティ憲章」に再構築しました。新憲章は「Self as We」の考え方を基本にすえ、持続可能な社会に向けた3つのテーマ「自然(地球)」との共生、「文化(集団・社会~国)」の共栄、「Well-being(幸せ)」の最大化を設定しています。加えて、サステナビリティの取り組みのひとつとして新たな環境エネルギービジョン「NTT Green Innovation toward 2040」を定め、「Well-being」社会の実現に向けてESGへの取り組みによる企業価値向上をめざし、「環境負荷ゼロ」と「経済成長」といった背反する目的の同時実現をめざしていきます。また人権憲章をリファインし、社会の期待に即した、さらなる取り組みの強化を推進します。

当社においてもこれら「NTTグループサステナビリティ憲章」等の再構築を踏まえ、今後「NTTコムウェアグループCSR活動指針」「環境方針」「人権啓発基本方針」を再構築し、サステナブルな社会の実現に向けてより一層、貢献していきます。

NTTコムウェア株式会社
代表取締役社長

黒岩真人

Masato Kuroiwa

新型コロナウイルス(COVID-19)への対応について

対応の状況

NTTコムウェアでは、新型コロナウイルス感染拡大を受け、感染症対策本部を立ち上げ、経営陣の随時関与のもと、各種の対応策を講じてきました。具体的には、国内初の感染者が確認された2020年1月下旬以降、注視すべき事業リスクとして監視を強化。社員の安全健康はもちろん、自社のBCPならびに通信をはじめ、電気、ガス、水道、医療、交通、金融、流通など、社会生活を支える事業者としての使命を果たすため、内外の動向を注視すると同時に、グループ全社を対象に時差出勤およびリモートワークの活用、設備衛生・健康管理の徹底、Web会議などのリモートツールの積極的活用など、適時に対応を講じ、感染の防止に努めてきました。

また社会全体が同ウイルスにより大きく経済・日常活動が制約される中、NTTグループは教育支援や地方自治体・企業・事業主への支援など、さまざまな支援施策を講じてきました。NTTコムウェアもその一環としてクラウド型勤務管理システム「follow®」の無償提供を2021年2月2日~2021年3月31日の期間にお申し込みをいただいた方に対し6ヶ月間の無償提供をいたしました。NTTグループによる取り組みの状況は、下記サイトで開示しています。

2021年9月、NTTは「with/afterコロナ社会におけるNTTグループの変革の方向性」として、分散型ネットワーク社会に対応した新たな経営スタイルの推進を表明しました。NTTコムウェアもこの決定に即し、今後のNTTグループの動向を踏まえつつ「新たな経営スタイルへの変革」へと機動的に取り組み、新常态に適応したソリューションの開発ならびに事業体制の構築を加速します。



新型コロナウイルス感染症の流行への
NTTグループの対応について

<https://group.ntt.jp/covid19/>

NTTコムウェアのCSR

社会と価値を協創する経営

NTTコムウェアは、日本の通信インフラを支え、人びとの暮らしを変えていきたいという想いを胸に、お客さまに最適なソリューションを提供してきました。ビジネスインテグレーターとして私たちは品質と信頼性を追求し、お客さまとともに考え、動き、真のパートナーとして新たなビジネス価値を「協創」していきます。

NTTコムウェア・ビジョン(2017年改定)

NTTコムウェア・アイデンティティ

NTTコムウェアは品質と信頼性を追求し、お客さまとのビジネス価値の協創を通じて、豊かなコミュニケーション社会の実現に貢献します。

コーポレートメッセージ

心をつなぐ、社会をつなぐ

行動指針

お客さまの持続的な発展と新たなビジネスの価値創造のために、お客さまとともに考え、ともに行動します。

企業価値向上のために、プロフェッショナルを目指します・育てます。

多様性を尊重し、社会の発展と安定のために社会の一員としての役割を果たし、ルールを守ります。

最高のチームパフォーマンスのために、“わかっているけど誰もやっていない仕事”に進んで取り組みます。

自分の夢を実現するために、自らの可能性を信じ、〇〇し続けます。

NTTグループの一員として

NTTグループは、「NTTグループCSR憲章」を基本として、社会的課題の解決を通じた持続的な成長の実現に努めています。同憲章は、グループのあり方を表現した「CSRメッセージ」と、具体的な重点取り組み項目を示した4つの「CSRテーマ」から構成されており、グループ一体となって取り組んできました。

私たちも「NTTグループCSR憲章」に基づき、自らの事業活動に応じたCSR活動指針(次頁)を策定し、社会的課題の解決に取り組んできました。

NTTグループCSR憲章



新サステナビリティ憲章の制定(2021年11月10日)

2021年11月10日、NTTグループは、サステナビリティ憲章を制定しました。これを受け私たちのCSR活動も、今後、CSR活動指針の見直しなどを随時進めていきます。サステナビリティ憲章の詳細は14ページをご覧ください。

社会に貢献する、私たちのCSR活動指針

NTTコムウェアのCSRは、「NTTグループCSR憲章」に即しつつ、自社の事業の特性を踏まえた行動を重視しています。また、その尺度としてSDGsを重視しています。なお、2021年11月のNTTグループサステナビリティ憲章の制定(14ページ)をふまえ、今後、CSR活動指針も再検証を開始する方針です。

これからも、持続可能な社会に貢献する企業グループであり続けるため、社会の変化を見据えつつ、多面的なCSR活動をグループ一体で展開していきます。

CSRメッセージ

私たちNTTコムウェアグループは、高い倫理観と技術力を持って最高のサービスと信頼を提供し、お客さまとのビジネス価値の協創を通じて、事業活動を通じた社会的課題の解決に取り組み、人と社会と地球がつながる安心・安全で持続可能な社会の実現に貢献します。

CSRテーマ

関連する主なSDGs



人と社会のコミュニケーション

私たちは、社会の持続的発展のため、お客さまのデジタルトランスフォーメーションをサポートすることにより、現在生じている国内外のさまざまな社会的課題に加えて、今後の技術革新の結果もたらされる新たな社会的課題の解決にも取り組み、より豊かでスマートな社会の実現に貢献します。



人と地球のコミュニケーション

私たちは、NTTコムウェアグループ事業全体にわたって環境負荷を低減し、ICTの利活用による社会全体の環境負荷低減に取り組み、さまざまな地球規模での環境問題の解決に努めます。



安心・安全なコミュニケーション

私たちは、社会を支え生活を守る重要なICTソリューションを提供する企業グループとして、社会的・倫理的な課題の克服に真摯に取り組み、情報セキュリティの確保や災害・サイバー攻撃にも強い安心・安全なコミュニケーション環境を提供します。



チームNTTのコミュニケーション

私たちは、“チームNTT”として心身ともに健康で、さまざまなパートナーの皆さまとともに高い倫理観と人権意識を持って事業に取り組み、ダイバーシティを尊重した働きやすい職場環境の整備や個の成長に努めて、豊かな地域社会づくりに貢献します。



SDGs Action Highlight

3

すべての人に
健康と福祉を

SDG 3

すべての人に 健康と福祉を

社会の期待

世界中の人が健やかに暮らせる社会をつくることは、人類共通の願いです。現在、健康や福祉の課題が依然として多く存在し、治療が困難な病気への対処法や、医療・保健サービスの十分な提供などが急がれます。SDG3は、それらの解決に、より強い協働を唱えており、企業も医療・研究機関などと連携を強めています。



Action for a Sustainable Future

人びとの健康増進に向けた、協働の推進

NTTコムウェアグループは、ICTおよびAI・データサイエンスの専門家として、それら技術を用いた社会課題解決に取り組んでいます。医療・福祉への技術展開においては今まで培ってきた技術を応用し、健康増進へとイノベーションの力で貢献するとともに、ヘルスケア分野に挑戦しています。

糖尿病治療にAI技術を活かす、実証研究

糖尿病は世界的に患者数も多く、その適切な治療法の実現が長年にわたり模索されている病気です。中でも糖尿病患者にインスリンを投与すべきかどうかという投薬判断は、細心の注意を要する課題です。NTTコムウェアは、新潟大学との産学連携協定の一環として同大医学部と協働し、糖尿病治療へのAI活用に取り組んできました。

チームは、診療記録データを活用し、専門医が初期治療

にインスリン療法を選択した患者さんの記録をAIに機械学習させ、初期治療にインスリン療法が必要かの判断能力について、非専門医との比較も含めて検証しました。AIはインスリン療法が必要か専門医と同等レベルの判断が可能であり、診療現場における重要な治療方針決定に関して支援が可能であることを示しました。その成果は医学系論文誌に掲載され、注目を集めています。

AIを活用した投薬判断支援



患者のバイタルデータ



診療記録データ

AIによる
投薬判断モデル作成



投薬判断への
支援情報の提供





SDG 5

ジェンダー平等を実現しよう

社会の期待

SDG5は、個人の属性によらず能力を活かす機会を提供されるジェンダー平等社会の実現をめざしています。日本の女性活躍推進は先進諸国と比べて立ち遅れているという指摘のある中、政府は2019年に女性活躍推進法を改正。301人以上が働く企業に対しては、自社の女性活躍に関する状況の把握や女性活躍を進める取り組みの策定、情報の公表など優先した貢献を求めています。



Action for a Sustainable Future

ダイバーシティ&インクルージョンの継続的な実践

NTTコムウェアグループは、法令遵守はもちろんのこと、ともに働く人の安全と健康、多様性を尊重することを重視しています。その一環として女性の活躍推進にも継続的に取り組んでおり、実現に向けて社内制度の整備に加え、社員の意識醸成など多様性が尊重された活力ある社会の実現を推進しています。

女性活躍推進ネットワーク(通称:WAVE)を中心とした、継続的な活動

NTTコムウェアはかねてより2025年度女性管理者比率10.0%以上を掲げ、また改正女性活躍推進法の内容も踏まえつつ、その推進の一環として女性活躍推進ネットワーク「WAVE」*活動を実施しています。

WAVEのメンバーは各職場のリーダー層(課長職一步手前の女性社員)を中心に構成され、自身の成長のみならず、周囲への働きかけを通じて女性が安心して活躍できる職場環境づくりの実現に向け、活動を行っています。

2020年度は不安や障壁を乗り越えて活躍している女性

管理者の座談会記事や、部下のワーク・ライフ・バランスの実現に貢献している管理者インタビュー記事の社内への発信、ダイバーシティカードゲームをWAVEメンバーの職場で実施することによる多様性の理解推進等、さまざまな活動を展開しました。また気付きを促進する異業種交流会も継続実施しており、2020年度はオンライン形式で「withコロナでの働き方」を積極的にディスカッションしました。

* Woman Action Variety Enjoy の略。女性の視点でさまざまなアイデアを出しつつ楽しく行動し、周囲を巻き込んで波を起こそうという想いを込めたネーミング

2020年度の活動の様子(カードゲーム、座談会)



女性の視点でさまざまなアイデアを出しつつ楽しく行動、周囲を巻き込んで波を起こそうという意味を込めています。



SDGs Action Highlight

8

働きがいも
経済成長も



SDG 8

働きがいも 経済成長も



Action for a Sustainable Future

社会全体に向けた、働き方改革の促進

社会の期待

すべての人が健康かつ働きがいを持って仕事に臨める環境の実現は、生産的で活力ある社会の実現に不可欠です。SDG8が、生産性の継続向上とディーセント・ワークを、ともに重要な目的に位置づけている理由です。withコロナの日常・ビジネス環境の中、その重要性は一層増しており、ICT企業のイノベーションに期待が高まっています。

NTTコムウェアグループは、かねてより、ICTを活用した製品・サービスで、日常および経済活動の変革に貢献することをめざしてきました。新常態に即した働き方の提案も、その大きなテーマであり、既にさまざまなお取引先と、SDG8に貢献しうる先進的な取り組みを開始しています。

follow[®]による幅広い企業での健康経営の推進

「follow[®]」は、企業の勤務管理業務を支援する一連の機能をクラウド環境で提供するソリューションです。NTTグループをはじめ、製造業、流通業など、累計約400社に採用されています。

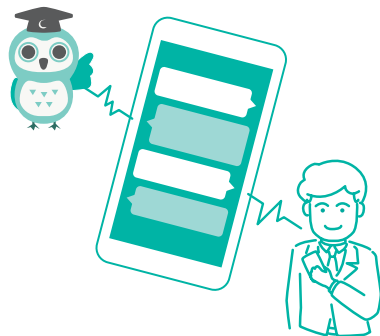
現在、新常態に即し、多様な働き方を前提とした健康経営が重要となっています。これを踏まえ、出勤・退勤・勤務場所・勤務内容・健康状態等の情報をチャットツールから

投入できる新機能「follow[®]チャットボット」を、2021年2月より提供開始しました。「Microsoft Teams」や「elgana」と連動して手軽に勤務管理を行える同機能により、リモートワークで不足しがちとなったコミュニケーションを促進するとともに、適切な勤務管理と健康管理を実現します。

健康経営に貢献する、follow[®]チャットボットの機能



elgana Microsoft Teams



機能	
出勤報告	出勤時に体調、体温、勤務場所、終了予定時刻を登録できます。
退勤報告	退勤時に業務実績を登録できます。
在宅勤務申請	在宅勤務予定日、勤務場所、業務予定を入力できます。
年次有給休暇	年次有給休暇の申請・確認・削除ができます。
作業内容登録	作業内容の登録ができます。(工数オプションご利用の方限定の機能です)



SDGs Action Highlight



SDG 9

産業と技術革新の基盤をつくろう

社会の期待

SDG9は、人びとが将来にわたり、先進的で快適な生活を送ることができる社会を実現するために、イノベーション(技術革新)を社会全体で推進することを唱えています。とくにICT企業に対しては、社会やコミュニティに改善インパクトをもたらす先進技術の開発とその実用化を通じ、主体的に貢献することが期待されています。



Action for a Sustainable Future

より快適な社会をもたらす、イノベーションの実現

NTTコムウェアグループは、「協創型イノベーションで未来を創る」を合言葉に、お客さまとともにより快適で便利な社会の実現に貢献するソリューションの開発を続けてきました。現在はNTTグループのシナジーを発揮しつつ、IoTやAIを活用し、ビジネスや日常生活を革新する多彩なサービスの提案を進めています。

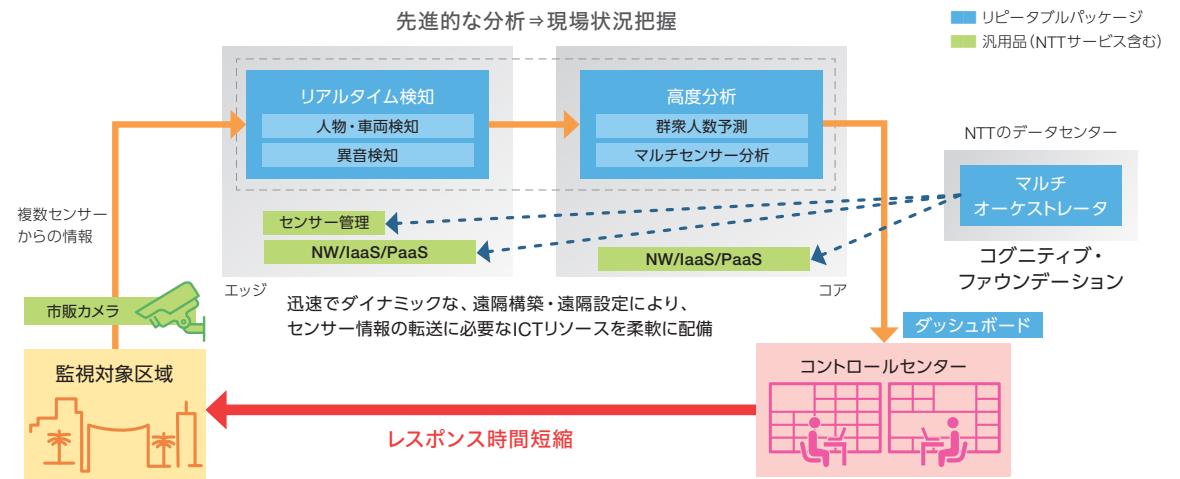
マルチオーケストレータによる、B2B2Xプロジェクトへの貢献

NTTグループは、B2B2Xモデルに基づき、スマートワールドの実現を提唱しており、中でもスマートシティ分野においてはコグニティブ・ファウンデーション®構想に即し、各地でその実現に取り組んでいます。NTTコムウェアは同構想のキーテクノロジーとなる「マルチオーケストレータ」の開発、サービス提供、技術支援でその実現に貢献しています。

2019年に米国ラスベガス市で始まった同取り組みは、2020年2月のマレーシア・サイバージャヤ地区での渋滞解消実証実験、同年8月の米国インディアナポリス市での大規模イベント活用などに展開されており、AIを用いた機能拡張の検討を進めています。

ラスベガス市の公共安全ソリューションのイメージ図 ~NTTグループが提供するソリューションの価値

群衆人数、車両数、人物、車両、異音などを検知・予測することにより「現場状況把握」を実現し、一次対応者派遣等のレスポンス時間を短縮





SDG 11

住み続けられるまちづくりを

社会の期待

SDG11は、人びとの安全で快適な生活を実現するため、サステナブルでレジリエント(強靱)な生活基盤インフラの社会全体での構築を重視しています。依然としてさまざまな社会課題が存在する中、その改善に貢献しうるイノベーションの開発、さらにはサービス化に、社会の期待が高まり続けています。



Action for a Sustainable Future

NTTグループの技術力による、インフラのレジリエンス強化

NTTコムウェアグループは、情報インフラを提供するNTTグループの一員として、SDG11に大きな責任を担っています。情報インフラの安定性・信頼性に並ぶ大きな課題が、AIやIoT技術を積極的に活用し社会インフラのレジリエンスの強化に寄与するソリューションの実現であると、私たちは考えています。

AIとICTで点検業務を効率化する「smart路面点検サービス」

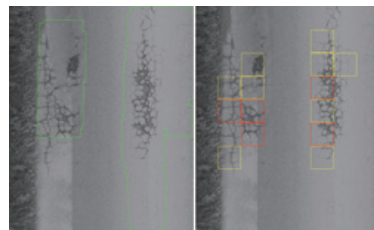
現在、日本各地では、公共インフラである道路の老朽化が進み、道路維持修繕費用の問題と併せ、大きな社会課題となっています。この問題にAIおよびネットワーク技術を活用することで解決策を見出すものが、NTTコムウェアがニチレキおよびNTT東日本と共同で開発した「smart路面点検サービス」です。

従来、点検に使用されてきた路面性状測定車は、安定した精度を有する一方で、人力による作業負荷やコストが課題でした。同サービスでは、AIとネットワーク技術、計測

ノウハウを組み合わせ、ひび割れ診断を画像認識AIによって効率的に実現し、路面点検のコストを60%削減しました。また新たな評価基準を創出した点も評価され、同サービスは2020年度「IT賞(社会課題解決領域)*」に選ばれました。

*公益社団法人 企業情報化協会主催。「ITを高度に活用したビジネス革新」に顕著な成果をあげた企業、団体、機関および個人に対して付与される。

AIによる解析イメージ



路面性状測定車と計測中の車内状況



12 つくる責任
つかう責任



SDG 12

つくる責任
つかう責任

社会の期待

環境汚染や資源の枯渇問題が深刻化する中、循環型経済（サーキュラーエコノミー）の重要性が唱えられ、その実現に向けた取り組みが加速しています。企業は、まず有限な資源を大切に使い、かつ、可能な限り環境を汚さない事業の仕組みを構築し、その結果を社会に開示することが、SDG12により求められています。



Action for a Sustainable Future

循環型の事業の仕組みの徹底

NTTコムウェアグループは、ICT事業者のあるべき姿として、率先して循環型社会構築への貢献に取り組んできました。長期的な取り組みの結果、OA用紙使用量の削減はもちろん、事業所からの一般廃棄物についても積極的な3R活動を展開し、ゼロエミッション(最終処分量を総廃棄物の1%以下にする)を実現しています。

職場でのリサイクルの徹底

OA用紙の使用量削減は、全社員が毎日できるSDGs貢献活動として重視しています。社員IDと紐づいた印刷量管理「マネージドプリントサービス」をはじめ、会議のペーパーレス化などを実施し、その進捗を四半期ごとに目標化しモニタリングしています。

また、オフィス廃棄物分別の徹底などにより、2008年度から13年間連続して一般廃棄物のゼロエミッションを達成

していますが、2008年度より実施している食品残渣リサイクルは特徴ある取り組みです。NTTコムウェアグループにある食堂から出た食品残渣を配合飼料に加工し、それをを用いて育てた豚を「コムウェアポーク」とし、NTTコムウェアグループ社員食堂にてメニュー提供し、意識醸成を図っています。社会の機運なども踏まえ、引き続き新たな取り組みを模索していきます。

食品リサイクル啓発ポスター



コムウェアポーク



気候変動に 具体的な対策を

社会の期待

地球温暖化問題は、人類共通の懸念事項ですが、現在なお有効な成果がもたらされていません。SDG13は、世界各地で続発する異常気象などを問題視し、いち早い行動を求めています。ICT企業は業務の特性上、大規模に電力消費を行う必要があり、事業および製品・サービスの低炭素化努力へと、厳しい目が向けられています。



Action for a Sustainable Future

事業の低炭素化の継続的な実施

NTTコムウェアグループは、ICTリーディングカンパニーとして、「Green by ICT」を合言葉に中期的な取り組みを展開してきました。中でも事業の低炭素化および気候変動対策は、ネットワーク・クラウド型ソリューションで社会に貢献する企業の責務としていち早く対策強化に着手し、継続的に推進しています。

低炭素性に優れたデータセンター

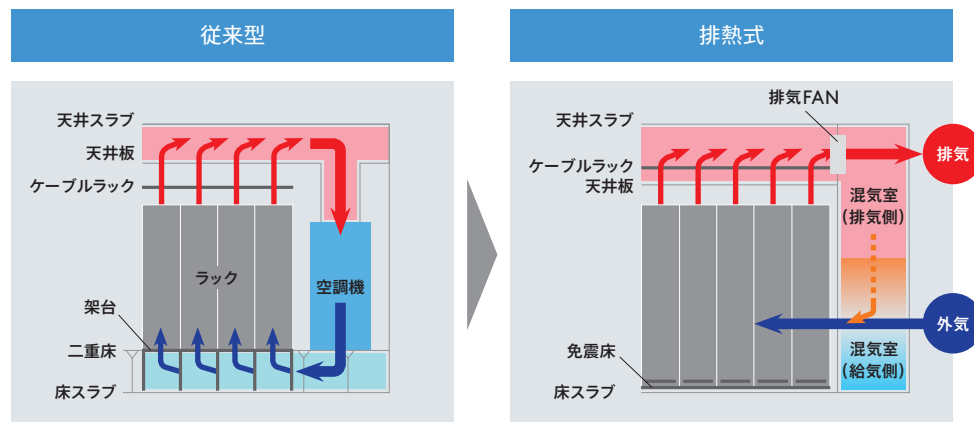
クラウド型サービスが社会に浸透した現在、データセンターの低炭素化は、ICT企業の環境戦略として、最も重要な課題のひとつです。NTTコムウェアは従来、サーバールームの気流制御や高度な空調管理、機器の省エネルギー化などを推進してきました。とくにSmartCloud®データセンター（排熱式）では、気流制御のみでサーバールームの温湿度を調整する、冷却装置を持たない完全外気空調方式採用により、空調消費電力を極限まで低減した省電力型

クラウドデータセンターとして知見を蓄積しました（2012年当時、pPUE*1.1以下を実現）。その知見をハウジングデータセンターに展開し、温度環境の見える化と気流改善および空調制御自動化を進めることで、さらなるデータセンター全体の省エネと運用効率化に取り組んでいます。

* Partial Power Usage Effectiveness

pPUE = (データセンターフロアの消費電力量) ÷ (データセンターフロア内のICT機器消費電力量)。データセンターフロアの電力利用効率を示す指標で、1に近づくほど効率が良い。

「排熱式」と「従来型」の主要設備の比較



さらに広がるアクション ~もっと知りたい方へ~

NTTコムウェアグループは、今回ご紹介した事例以外にも、多くの取り組みでSDGsへ貢献しています。

心をつなぐ、



社会をつなぐ

4 質の高い教育を
みんなに



次世代人材を育む、データサイエンス講義の実施

SDG4: 質の高い教育をみんなに

新潟大学との連携協定に基づき、2019年度よりデータサイエンス関連の授業提供を継続的に実施しています。2021年5月に実施したNTTコムウェア社員による講義には、修士課程、博士課程の約125名の受講生が参加しました。withコロナの中、オンラインでの実施となりましたが、社会の変遷とともに成長を続けるデータサイエンスの持つ可能性と、注目される手法についての講義は、チャットでの質疑なども交え、活発なものとなりました。



7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



再生可能エネルギー利用の推進

SDG7: エネルギーをみんなにそしてクリーンに

NTTグループは中期経営戦略「Your Value Partner 2025」の柱である「ESG経営の推進」の取り組みとして、2020年5月に「環境エネルギービジョン」を策定し、自らの再生可能エネルギー利用を2030年度までに30%以上とすることを目標としています。NTTコムウェアグループも取り組みを本格化しています。2020年度は再生可能エネルギー電力使用量5百万kWhという目標を掲げ、達成しました。





チャットボットによる営業情報投入支援

SDG9：産業と技術革新の基盤をつくろう

企業のデジタルトランスフォーメーションが進む中、営業活動のデジタル化“セールステック”に取り組む企業が年々増加しています。

NTTコムウェアでは企業のセールステックを支援するサービスとして、スマホのチャットツールからCRMシステム「Salesforce」へ商談情報や活動情報を投入できるチャットボットサービス「SARABOT」の提供を開始しました。利用者は隙間時間や移動時間を活用して営業報告ができ、営業活動を効率化できます。



「SARABOT」での営業報告



いち早い、災害復旧対応の徹底

SDG11：住み続けられるまちづくりを

NTTコムウェアグループでは、首都圏や東海、関西での地震による被災など、さまざまな災害を想定し、自社の災害対策訓練はもちろん、NTTグループ各社の訓練への参加を毎年実施し、大規模災害発生時においても迅速な対応ができるように日頃から備えています。東日本大震災の経験を踏まえ強化された災害対策は、2021年2月に東日本で発生した大規模余震でも発揮され、ICTインフラの安定稼働に貢献しました。



監視・保守・運用の司令塔である「FSC24®」



パラスポーツ支援を通じた、ダイバーシティ促進

SDG10：人や国の不平等をなくそう

障がいのある方が、自分らしく活躍する上で、周囲の理解と協力は大きな力となります。NTTコムウェアではシンボル選手 蛭沢文子（ボッチャ）の競技活動を支援するとともに、特設サイト「NTT COMWARE ATHLETE TEAM」での特集記事やフォトギャラリーなどにより活動を紹介しています。また、本社フロアにボッチャコート（ハーフサイズ）を常設し、社員のパラスポーツ理解と一体感醸成を図っています。



NTTコムウェア株式会社
ボッチャ 蛭沢文子選手



社員のボランティア活動の奨励

SDG17：パートナーシップで目標を達成しよう

NTTグループでは、継続的な企業市民活動の実施を重要としており、ポータルサイト「NTT VOLUNTEER」を立ち上げ、スポーツボランティアを中心に、地域振興、障がい者支援といったさまざまなボランティア活動への参加者募集、活動報告を行っています。この一環として東京2020大会のボランティアへもNTTグループ各社から社員が参加しており、NTTコムウェアグループからは19名の社員が参加しました。



ポータルサイト「NTT VOLUNTEER」

NTTグループ 新サステナビリティ憲章の制定(2021年11月10日)

2021年11月10日、NTTグループは、サステナビリティ憲章を制定しました。同憲章は、既存のCSR憲章を、CSV、SDGs、ESG等を包含して再構築したものであり、3つのテーマを目標のもと、9つのチャレンジ、30のアクティビティを設定しています。

NTTコムウェアも、これを受け、今後、CSR活動および目標の見直しを随時進めていきます。

3つのテーマ	9つのチャレンジ	30のアクティビティ
「自然(地球)」との共生	社会が脱炭素化している未来へ	<ul style="list-style-type: none"> ① 省エネルギーの推進 ② IOWN導入による消費電力の削減 ③ 再生可能エネルギーの開発と利用拡大 ④ カーボンニュートラルに貢献する新サービスの提供 ⑤ 革新的な環境エネルギー技術の創出
	資源が循環している未来へ	<ul style="list-style-type: none"> ⑥ 通信設備・携帯端末のリユース・リサイクルの推進 ⑦ プラスチックの利用削減、循環利用の推進 ⑧ 有害廃棄物の適正な処理、保管・管理徹底 ⑨ 水資源の適切な管理
	人と自然が寄り添う未来へ	<ul style="list-style-type: none"> ⑩ 環境アセスメントの徹底 ⑪ 生態系保全に向けた貢献
「文化(集団・社会～国)」の共栄	倫理規範の確立と共有	<ul style="list-style-type: none"> ⑫ 自らの倫理規範の確立と遵守徹底 ⑬ コンダクトリスクへの適切な対応 ⑭ コーポレートガバナンス・コンプライアンスの強化徹底 ⑮ ビジネスパートナーとの高い倫理観の共有
	デジタルの力で新たな価値を	<ul style="list-style-type: none"> ⑯ B2B2Xモデルの推進 ⑰ 知的財産の保護と尊重 ⑱ 地方社会・経済の活性化への貢献
	安全・安心でレジリエントな社会へ	<ul style="list-style-type: none"> ⑲ 通信サービスの安定性と信頼性の確保 ⑳ 情報セキュリティ・個人情報保護の強化 ㉑ リモートワークを基本とする分散型社会の推進
「Well-being」の最大化	人権尊重	<ul style="list-style-type: none"> ㉒ NTTグループ人権憲章の遵守 ㉓ 社会全体への人権尊重の働きかけ
	Diversity & Inclusion	<ul style="list-style-type: none"> ㉔ 女性活躍の推進 ㉕ マイノリティ(LGBTQ等)の包摂と障がい者の活躍推進 ㉖ 仕事と育児・介護の両立支援
	新しい働き方・職場づくり	<ul style="list-style-type: none"> ㉗ リモートワークの推進 ㉘ 人身事故ゼロ及び社員の健康の保持、増進 ㉙ 自律的な能力開発の支援 ㉚ 紙使用の原則廃止




自社のCSR目標に関連させ主体的に貢献するもの、製品・サービスを通じてお客さまとともに貢献をめざすものなど、詳細な情報については、下記のサイトもご覧ください。



CSRサイト


4つのCSRテーマに即した、継続的な取り組みなど、NTTコムウェアグループのCSRに関する情報を紹介しています。

 <https://www.nttcom.co.jp/csr/>



サービス紹介サイト

お客さまやエンドユーザーの皆さまとともに、より良い社会の実現をめざす、多彩な製品・サービス群を紹介しています。

 <https://www.nttcom.co.jp/solution/>

- * 人名、団体名、公共機関名などは原則として敬称を略しています。
- * 「SmartCloud (スマートクラウド)」「follow」「SARABOT (サラボット)」「FSC24® (Field Service Cockpit 24)」は、NTTコムウェア株式会社の登録商標です。
- * 「elgana」は、NTTビジネスソリューションズ株式会社の登録商標です。
- * MicrosoftおよびMicrosoft Teamsは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- * 「B2B2X」「コグニティブ・ファウンデーション」は日本電信電話株式会社の登録商標です。
- * 「Salesforce」「salesforce.com」は、salesforce.com,inc.の商標または登録商標です。
- * その他、記載されている社名、商品名などは各社の商標または登録商標である場合があります。

お問い合わせ窓口

NTTコムウェア株式会社

総務人事部 CSR推進室

〒108-8019 東京都港区港南1-9-1

NTT品川TWINSアネックスビル

 <https://www.nttcom.co.jp/csr/>

2021年12月発行(次回発行2022年10月予定)

